

優秀賞

確かな目

島根県立出雲高等学校 2年

神谷 和輝

僕が 8 年過ごしたエジプトは、「アラブの春」により政権交代を迎えた国の一つだ。2011 年 1 月 25 日を始めに国内で反政府デモが発生し、30 年以上長期政権を維持したムバーラク大統領は失脚した。その後、簡単には民主化は進まず、経済格差や雇用問題など課題は山積している。戦争や内戦状態ではなくとも安定した国とはとてもいえないだろう。

近年、ヨーロッパをはじめ、世界各国でイスラム過激派によるテロ活動が多発している。国民の 90%がイスラム教徒というエジプトは、多くの日本人からみると治安が悪く、過激な人が多くいる怖い国とみえるらしい。事実、僕の周りには、イスラム教徒はテロを起こすと思っている人が少なくない。イスラム国の台頭により、とにかくイスラム教徒への偏見や差別が広がっているようだ。

そもそもイスラムの教えには、「あなたがた自身を殺してはならない」と明確に述べられている。このことから、自爆攻撃は真のイスラムとはまったく無関係だと思う。親切であたたかいイスラム教徒の友人がエジプトにたくさんいたからこそはっきりと言えるのだが、国の問題と個人は全く別のものだ。2011 年の反政府デモの影響で日本へ一時帰国していた僕が再びエジプトへ向ったその日に東日本大震災が起きた。エジプトでは、すぐにクラスメートや近所に住む人々が心配してやってきた。エジプト人の保護者が中心となってすぐに日本への募金活動がはじまった。アジア、ヨーロッパ、アメリカ、中東、本当にたくさんの方々が協力してくれた。エジプト人の友人セイフのお母さんが「早く日本の人々に笑顔がもどりますように」と自分の国が混乱しているにも関わらず他の国である日本の事を思ってくれたことが今でも忘れられない。貧しい人や困った人をほうっておかず、助けたいという気持ちがとても強い優しい、人思いな人々だ。

日本では、イスラム教徒が起こしたテロについては何度も情報発信されるが、イスラム教徒が貢献した事や善行については、あまり一般の人々の耳に届かないように思う。確かに先進国の方が大きく貢献しているためそちらの方が報道に出るが、国内情勢が不安定で自分の国の事で精一杯の国々からも支援してもらっていることを私たちは知るべきだ。僕自身、メディアを通して得る情報だけにふりまわされず、かんたんに人々や物事を批判したり、無責任な評価をしたりしないようにしたい。

みんなが求めている平和な世の中のためには、各国が認め合わなければならないし、多くの国際課題は互いの立場や状況を十分に理解し、力を合わせて取り組まなければ、とても解決はできないと思う。

差別や偏見は本来協力し合わなければならない国家間の不調和を助長させてしまう。戦争や内戦を起こすのも、差別や偏見を生むのも人だけ、それらを解決できるのも人しかない。

今、僕にできることは国や宗教や文化の違う人々を知ろうという気持ちを忘れないことだ。いろいろな国々の文化や歴史を知り、差別的な目や偏見を持つことなく人々と関わっていききたい。そして将来、多くの問題を抱えている、助けを必要とする国々に行き、現地の人々と交流をさらに深め、一緒に未来を切り開いていきたい。